

# あぐり<sup>だ</sup>なんたん

南丹農業改良普及センターだより

平成30年2月

第20号

- p2 **特集 1** 雪害を乗り越えて
- p4 **特集 2** はたけじょし 畑女子 in 京都丹波 楽しく活動中!
- p5 **新規就農者の紹介**
- p6 **注目の技術** topics
- 黒大豆の「早播き・摘心」技術～発芽率の確保・倒伏防止に～
  - 伏見とうがらしの「アントシアン着色果」を減らす取組
  - 水耕で周年栽培にチャレンジ!
- p7 **GAPとは?**  
**有機農業の輪を作ろう**
- 表彰**
- 豊かなむらづくり全国表彰
  - 京都府農山漁村伝承技能登録
- p8 **所長の一言**  
**New Face! 新任職員の紹介**  
**大丹波地域の農業士等が交流**  
**平成30年度京都丹波就農サポート講座 受講生募集 !!**



コンバインで収穫した京都大納言小豆  
(亀岡市本梅町平松)



# 雪害を乗り越えて

平成29年1月14日から断続的に降り続いた大雪は、京都府中北部各地で、生活や交通に支障が出たほか、農林業に大きな被害をもたらしました。

全壊や大破したパイプハウスは、京都府全域で880棟、うち南丹地域は475棟となりました。過去10年では、平成21年12月〜22年1月に344棟が倒壊したのが最大であり、今回はこれを大幅に上回る被害となりました。また、倒壊したハウスでは出荷ができなくなるなど、農業経営に大きな打撃となりました。

このような状況を受け、京都府及び市町では、関係団体と連携し、被害を受けたパイプハウスなどの撤去・復旧に加え、今後同じような被害を発生させないための補強資材の配備などの支援を行いました。普及センターでは、その後の降雪による被害を抑えるため、雪害対策について追加の情報発信を行いました。また、一日も早い雪害からの復旧のため、南丹地域農業士会ではハウスの解体方法についての研究会が行われました。

雪害発生から約一年が経過し、南丹管内でも着々とハウスの再建が進んでいます。今回は、復旧に取り組み、さらなる経営拡大に向けて活躍されている生産者の皆様にお話を伺いました。



雪の被害を受けたハウス

## 経営拡大への思いを貫く



北井完司さん

北井さんは南丹市日吉町で、壬生菜・万願寺とうがらしを中心に栽培されています。15年前に新規就農した後、着実にハウスの栽培面積を増やし、最近では就農希望者を雇用するなど、経営拡大のための準備を始めておられました。

今回の雪害によりパイプハウス15棟のうち6棟が全半壊しました。壬生菜など出荷物の大半をパイプハウスで生産する北井さんにとって「生産が止まってしまふのは死活問題」となり、すぐにパイプハウス再建を決意されました。しかし再建すると今後の経営資金が減ることになるため、経営拡大を遅らせるのか、他に



壬生菜の収穫作業

南丹市日吉町 北井 完司さん

選択肢は無いかと悩んでおられました。

普及センターではそのような北井さんに対して、経営の将来像について検討する機会を持ちました。その結果、資金調達や雇用環境づくりなどについて解決策を見い出され、再び経営拡大を目指すことになりました。北井さんに今後の方向性を尋ねると、「雇用を確保して、作業能力を上げ、規模を拡大していきたい」と力強く答えていただきました。

## あと10年は農業を続けたい



亀岡市旭町 平井 國晴さん

平井國晴さんは、パイプハウス10棟で、キュウリ・トマトや葉菜類を意欲的に栽培されていましたが、8棟が全半壊と、大きな被害を受けました。

一時は気持ち落ち込んだ平井さん。しかし、「秋後半から春先にかけての出荷物がなくなってしまう、収入が大きく減ってしまう」との危機感から、5棟のパイプハウスの再建を決意されました。早速、



復旧したハウスの中で

資金の調達について普及センターと相談し、復旧作業を進められました。

昨年2月には2棟、11月には3棟のパイプハウスの復旧が完了。トマト・キュウリや葉菜類を栽培し、地元の直売所などに出荷されています。「今後も切れ目の無い出荷を目指し、あと10年は野菜の栽培を続けたい。」と平井さんは力強く話されました。



トマトを収穫する平井さん

## 先を見通す『備え』で困難を乗り越える

京丹波町和知地域 杉浦 美穂さん

杉浦さんは、平成22年に就農し、パイプハウスでこだわりの九条ねぎを周年栽培する、ねぎをこよなく愛する農家さんです。

杉浦さんのパイプハウス9棟のうち3棟が全壊しました。パイプハウスが経営の中心であったため非常にショックを受けましたが、何とか前に進まないといけないと気を強く持ち、復旧に向けて作業を着実に進められました。「日々行ってきた作業に加えてパイプハウスの建設をするのは大変な



ハウス建設作業中

苦労」とのことでしたが、前もってパイプハウスの倒壊に備えて保険に加入していた上、自力でパイプハウスを建設するためアルバイトで建設技術を習得されていた杉浦さんは、以前にも雪害を受けた6棟を再建した経験を活かし、3棟全てを自力で再建されました。

今後は、九条ねぎの周年栽培を中心にさらなる経営発展を目指されます。杉浦さんは「何が起こるか分からないので、何事も備えが重要です」と明るく語っておられました。



杉浦美穂さん

「畑女子in京都丹波」楽しく活動中!



自己紹介と意見交換 (第1回)

「昨年、京都府で『京の農林女子ネットワーク会議』が設立されたのを受け、若い女性農業者がより集まりやすいように、南丹地域版として「畑女子in京都丹波」を立ち上げ、これまで3回の会合を行いました。

初回の集まりでは、メンバーが販売しているお弁当を食べながら、今後どのような活動を行うか、本会に期待していること等について意見交換を行いました。また、その時に出た意見を受けて、第2回は種苗メーカーを招いて直売所向け品目の勉強会、第3回はメンバーのほ場見学会を行いました。

参加者には子育て中の方もいて、地域を越えて集まる機会がほとんどないので、参加者からは「同年代の女性農業者と話ができて嬉しい」「こんな会ができて良かった、ストレス発散にもなる」と好評です。

普及センターは、今後若い女性農業者を支援していくために、当会の活動支援を続けます。40歳代までの女性で参加を希望される方は、普及センターへご連絡ください。お子様連れの参加もOKです



直売向けトマト品種の勉強会 (第2回)



メンバーのほ場を見学 (第3回)

新規就農者の紹介



木村元気さん

木村さんは、平成28年4月に2年間の担い手養成実践農場研修を終えて就農されました。現在は、壬生菜、万願寺とうがらし、ハクサイなどを栽培し、JA等に出荷されています。

一人で何かをやってみたという気持ちから会社勤めを辞めて、農業の世界に飛び込まれました。農業を始めて良かった点は、「マイペースで仕事ができ、頑張りが直に結果として帰ってくるのが魅力」、苦労し



白菜の調製作業

ている点は「自然環境に左右されやすいところ」と農業の魅力と厳しさを実感されておられます。今は、自身の農地をフルに有効活用する作付計画や雑草対策に試行錯誤しながら取り組んでおられます。

今後の営農について、「まずは基礎をしっかり固めていくことを心がけ、品質の良い農作物を作れるように頑張っていきたい」と謙虚に語る木村さん。これからの活躍が期待されます。

マイペースでできるのが農業の魅力

南丹市日吉町 木村 元気さん

地域に貢献できる農家を目指して

亀岡市東本梅町 日下部 裕一さん



日下部裕一さん

日下部さんはパイプハウスで、キュウリ、トマト、シュンギク等、露地でナス、オクラ、ホウレンソウ、ブロッコリー等の野菜と米を生産し、スーパーや直売所等で販売されています。

就農する前は、東京で会社員をしながら音楽活動も行われていました。2ndアルバムをリリースし、全国ツアーを平成23年3月19日から始める予定でした。しかし東日本大震災の影響で中止になったのを契機に、改めて将来を考え直したとき「グローバリゼーション」と真逆の「ローカライゼーション」という概念に触れ、東京一極集中の現状に疑問を感じました。

地元で様々な人との繋がりができると、今まで自分が感じていなかった亀岡市の魅力を再発見でき、より発展できるように貢献したいと思うようになられたそうです。



シュンギクの収穫作業

「地域経済が回れば地方の可能性も高くなり、おもしろくなると思うので、自分は農業の基盤をしっかり作り、雇用できるくらいの規模拡大を目指してがんばりたい」と抱負を語られました。

## GAPとは？

GAPとは「Good・Agricultural・Practice（良い・農業・習慣）」の頭文字をとった略称です。環境への負担を軽減し持続可能な農業を目標とし、作業環境を整え、生産者を事故から守ろうと農薬の管理や衛生管理を適正に行い安心・安全な農産物の提供を行います。右表でGAPに取り組んでいるかを確認し自らの作業環境を見直す機会にしてください。

項目(例)	内容	チェック
作業衛生	作業前、作業後に手洗いを実施していますか。	✓
出荷調製	作業場は整理整頓に努めていますか。	
農薬管理	施錠できる保管庫で適切に管理されていますか。	
資材管理	燃料がこぼれた際の吸着材や消化器の設置はできていますか。	

## 有機農業の輪を作ろう

当普及センターでは、有機農業に取り組まれている方や取り組みたいと考えておられる方々の栽培管理技術向上を目的に、有機農業講座を開催してきました。平成28年度からは、参加者同士の交流も目指し、「京都丹波有機農業サロン」を開催しています。

29年度は全2回の開講で、1回目は6月に管内の有機農業実践者2名の圃場見学、2回目は8月に「土作り～SOFIX 分析とその利用」と題し、立命館大学の久保教授の講義を受講しました。

「有機農業」とひと口に言っても、様々なやり方があるため、実践者の圃場を見学し、説明を聞くことはお互いにとっても参考になりました。またSOFIXという土壌中の微生物数の分析・診断手法についての知識を深めることができました。



土づくりについての講義



有機農業を実践されている方の圃場を見学

磨き上げた知恵と技

## 平成29年度 京都府農山漁村伝承技能登録者



京都府では2年に一度、農山漁村地域に伝わる伝統的で優れた生産・生活に関わる技能の登録を実施しています。今年度は南丹地域から5名の方が登録されました。今後の各地域でのご活躍が期待されます。

### 技能登録された皆様（敬称略）

- 亀岡市 小林みつ代「亀岡行事食づくり」
- 原田 雅之「和牛の肥育技術」
- 南丹市 安田 文子「サバのなれ寿司づくり」
- 京丹波町 細井佳代子「瑞穂大納言の高品質栽培」
- 平井 一三「キヌヒカリの良食味栽培」

## 平成29年度 「豊かなむらづくり全国表彰」

美山町鶴ヶ岡では、18集落の住民が一丸となって「住み続けられるまちづくり」を目指し、多種多様な活動を行ってこられました。その活動の中で、地域コミュニティの維持・活性化、さらには移住・定住促進を図る取り組みを展開され、これらが先進事例として全国的にも高く評価されました。

### 農林水産大臣賞

### 美山町鶴ヶ岡振興会（南丹市）



農村教育民泊を実施



旧校舎を活用したイベント

## Topics

### 注目の技術

## 黒大豆の「早播き・摘心」技術

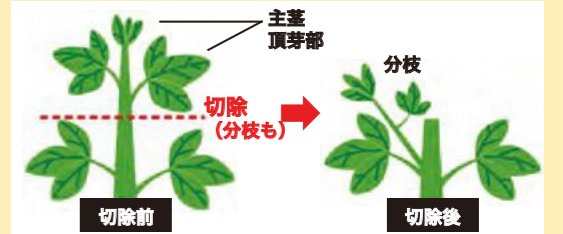
～発芽率の確保・倒伏防止に～



黒大豆の播種・移植時期である6月上中旬は梅雨時期に当たるため、直播では土壌中の過剰な水分条件による発芽不良、移植では適期に作業が進まず問題となっています。そこで、梅雨入り前に播種する「早播き」と草丈を抑えるための「摘心」を組み合わせることで、安定した発芽率の確保や支柱設置作業の省略を狙えます。

具体的には、梅雨入り前の5月下旬頃に播種し、7月下旬頃の開花期直前に主茎7～8節（草丈約40cmを目安）で摘心します。これにより、開花始めは遅れますが、草丈が低くなることで倒伏が軽減できます。

平成29年度の実証試験でも倒伏が軽減され、無摘心区に比べて整粒率が約7%増加するという結果が得られました。



黒大豆の摘心

## Topics

### 注目の技術

## 伏見とうがらしの「アントシアン着色果」を減らす取り組み

アントシアンという紫の色素が着色した伏見とうがらし（写真）は、商品性が著しく低下し、出荷できません。アントシアンの生成には近紫外線などの関与が知られているため、その透過性が低い「青色被覆資材」（商品名：青パオパオ）をパイプハウス内部に被覆し、効果について検討しました。

日射が強い9月上旬には、アントシアン着色果の発生率は無被覆で3.8%に対して、被覆では0.1%と明らかに低くなりました。生産者は、「資材のコストや設置作業の手間もあるが、夏期のハウス内部は涼しく、作業効率向上の効果も高いので、来年作に向けて導入を検討したい」と意欲的です。



▲青色資材の被覆の様子  
▼アントシアんで着色した伏見とうがらし

## 水耕でレタスの周年栽培にチャレンジ！



「水に浮かべた発泡スチロールの穴に、苗を入れるだけ。定植作業は非常に楽だ」と話すのは、亀岡市河原林町で水耕栽培を行う湯浅義則さん。70歳の経営面積のうち、3㎡でリーフレタスの水耕栽培に取り組んでいます。

水耕栽培は、土耕と違い土づくりの必要がなく生育スピードが速いうえに、定植や収穫の作業も楽で周年栽培が可能です。

湯浅さんは元々、露地とハウスでタマネギ、ネギ、キュウリなどを栽培されていました。しかし、出荷量の少ない時期があるため、周年で葉物野菜が栽培できる技術を求めておられました。そこで今回、「小さな経営革新チャレンジ支援事業」を活用して、水耕栽培システムを自家施工されました。昨夏には大きく育ったリーフレタスを出荷され、売上げも上々です。

「今後、収益性の高い他の品目の水耕栽培に取り組み、規模拡大を目指していきたい」と意気込んでおられます。

## 所長の一言

### 「普及」にこだわって

所長 今井 久遠



私は、平成16年の春、47歳の時に、初めて普及センターに配属されました。

配属先は南丹農業改良普及センターで、担当地域は京丹波町瑞穂地域でした。丹後農業研究所で米の栽培経験はあるものの、他作物は栽培経験も少なく、不安でしたが、現場で皆様と会話を重ねるうちに不安が取り除かれていったことを覚えています。

普及センターの仕事は、イベントのようにその場限りではなく、提案した技術や仕組みなどが5年後、10年後にも活用されないといけないと思いますし、それが「普及」だと思っています。

このように、成果が残る、やりがいのある普及に携われたことを感謝しますとともに、お世話になりました皆様には、本当にありがとうございます。

これからも、農業農村が少しでも良くなるよう普及指導員が皆様と共に考え、チャレンジしますので、ご協力をお願いします。

NEW FACE!



### 上羽侑平技師

昨年4月に農業技師として採用されました。積極的に現場に出て農家の皆様のお声を聞き、職場の先輩方にアドバイスをいただきながら、早く一人前の普及指導員となれるよう成長していきたいです。

### 「大丹波連携で農業士が交流」

平成29年11月17日、亀岡市で、京都府と兵庫県にまたがる丹波地域の農業経営士、指導・女性・青年農業士(27名)が集い、市内2か所の現地視察と、「今後の農業士の役割」をテーマに意見交換を行いました。



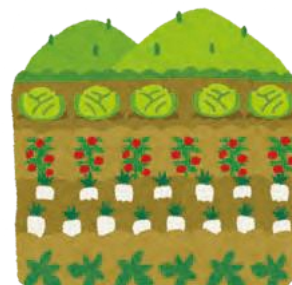
農業士が意見交換

今後も、両府県の丹波地域で連携を強め、地域農業の振興や担い手の育成・確保などについて、相互に交流し情報交換をすすめる予定です。

## 平成30年度京都丹波就農サポート講座

受講生募集予定!!

- 対象 ①将来、京都丹波地域の農業の担い手として基礎技術習得が必要な方。  
②農福連携に取り組む施設で農業技術の指導に携わる職員。定員20名程度。
- 日時 平成30年4月～10月予定。原則平日午後1時30分～5時。
- 会場 京都府園部総合庁舎(南丹市園部町小山東町藤ノ木21)他
- 講座内容(予定) 土壌肥料、病害虫防除、露地野菜、施設野菜、豆類等の基礎技術  
先進農家の経営視察研修等全10回程度
- 受講料 無料(但し実費負担を求めることがあります)
- 申込方法 申込書に記入の上、持参・郵送・FAX・電子メールで申し込み。  
書類選考の上、3月末日までに受講生を決定。詳しい募集要領・  
申込書の請求は普及センターまで(普及センターのホームページにも掲載)
- 締切 平成30年3月20日(火) 必着



編集  
・  
発行

京都府南丹広域振興局  
農林商工部  
南丹農業改良普及センター

京都府南丹市園部町小山東町藤ノ木21  
TEL 0771-62-0665 FAX 0771-63-1864  
ホームページ▶<http://www.pref.kyoto.jp/nantan/no-nokai/>  
E-mail▶[nanshin-no-nantan-nokai@pref.kyoto.lg.jp](mailto:nanshin-no-nantan-nokai@pref.kyoto.lg.jp)